ほかのお宅を見て「もうこの家塗り替えなきゃだめだなぁ」なんて気をもむようになってしまいました(笑)

取材協力　札幌市清田区在住 **松橋** さん

お住まいの情報　築25年／建坪約32坪／塗装面積約300平米

幸和塗装とは、20年近いお付き合いになる札幌市内にお住まいの松橋さん。建売住宅を購入され、隣にお住まいのお母様の住宅同様、外壁・屋根の塗り替えを現在まで4回にわたって幸和塗装に依頼。その理由と、新築と見間違えるような外観を保てている秘訣を教えてもらいました。

ご自宅をバックに松橋さんご夫妻と幸和塗装・齊藤綱裕代表取締役

―パステルカラーの外壁が多くて明るい雰囲気の住宅街ですが、いつ頃からお住まいなのですか

引っ越してきたのは1987(昭和62)年で、隣家に両親と一緒に移ってきました。ここは大手不動産会社の建売住宅で、はじめてのマイホーム購入でした。

―幸和塗装に塗り替えを依頼したきっかけを教えてください

先代にあたる齊藤社長のお父さん(齊藤博治氏)から「塗装しませんか」と言われたのが、この地区に引っ越してきてから6、7年経ってからのことです。でも、私は正直なところ、新しい家を購入したのだから、ほとんど手入れはしなくていいと思っていました(笑)。

―塗り替えをすることに決めたのはどうしてですか

ここら辺は同時期の新築住宅のため、塗り替えを行っているお宅はほとんどありませんでした。でも、先代社長から「傷みの来ないうちに手入れしておいたほうがいいですよ」と言われ、両親の家とあわせてお願いすることにしたのです。そのときから数えると、もう4回も塗り替えを行っています。

―家の塗り替えは、一般的に10年前後と言われますが、松橋さんのお宅が小まめに行うのはなぜですか

やっぱり雨風に当たると塗料も自然と剥がれてくるから、そうなる前に6、7年の間隔で塗り替えれば大丈夫なんですね。古くなった壁と新しい壁に塗料を塗るのでは、全く色ツヤの〝持ち〟が違うと幸和さんが言っていました。

定年後に大きな工事をして出費がかさむのは大変なことですから、大きな傷みがない内に小まめに手入れをすることが、新築と変わらない外観を維持する秘訣だと実感しています。

―齊藤社長が、「20年前とまったく変わらない」と絶賛するのも納得の壁ですよね。お隣のお母様のお宅の落ち着いた赤壁も、風景と馴染んでいて素敵です。

ええ。最初からあの色が気にいっていて、ずっと変えていません。公園の向かいに建っていることもあって、よくここら一帯の目印ともなっているんですよ。数年前までは90歳を超える母が、自分で熱心に庭の手入れをしていたのですが、そのガーデニングもよく映える色です。

当時は下塗り後の乾かす工程期間に、塗り替えが必要な家はないかご近所を見て回っていたようで、今ではこの地区の20～30棟ものお宅を幸和さんが手がけるようになりました。その声をかけるとき、ひとつ幸和さんが目安にしていたことがあったのですが、それが庭の状態なんだそうです。

―と、言いますと？

庭の手入れをしているお宅は、塗り替えをはじめとした家周りの手入れも惜しまないけれど、逆に庭がほったらかしにしているのは、家周りもおろそかになりがちなんだそうです。だから、いかにそういう人にやる気になってもらうかが大変だと。

―庭は人となりを表すということですか。それだけの観察眼を持って、ニーズを探っているのですね。

私も幸和さんに塗り替えを何度もお願いしているうちに、ほかのお宅を見て「ここの壁は塗り替えないとダメだなあ」とか、「トタンが曲がっているなあ」なんて気づくようになってしまいました(笑)。

―なるほど、気をつけないと見られていますね(笑)

目を引く赤壁はお母様も気にいっている色。やはり壁がきれいだとガーデニングにも力が入るようです